

## 日常異変 コロナの私 (13)

With-コロナから After-コロナに続く新しいスタイルの働き方改革

### コロナ禍の丸の内界限

緊急事態宣言が解除され、東京アラートも解除されましたが、東京では新型コロナウイルスの新規感染者が200人を超えたと発表されても驚かないくらい、徐々に増え続けています。

こちらは…



創英東京本部オフィスから眺めた皇居です。普段なら観光客を運ぶ黄色のハト

バスが並び、中国人が中心の行列ができていますが、人影はありません。

4月から5月は、当局の自粛要請によって人出を抑えてコロナ感染を抑えていたのですから、東京アラートも解除されて人出が増えれば新規感染者が増えるのは当然です。

コロナと一緒に過ごしていく、というのが今後、当面の間の働き方でしょう。こちらは…



創英東京本部から徒歩2分、丸の内仲通りです。本当に新緑が綺麗です。在宅勤務が多いため、人通りは少ないです。

今年、来年と、少なくとも当面の間はリモートワークが中心となる日々が続くでしょう。

こちらは…



創英オフィスの事務フロアです。緊急事態宣言下に撮影しましたが、約8割のスタッフが在宅勤務しており、人影はまばらです。丸の内の高層ビルですから、家賃は目をむくほど高いので、新型コロナ禍でオフィスの費用対効果は最悪です。

### リモートワークの手ごたえ

そういう中、創英は緊急事態宣言下では在宅勤務率85%で業務を継続してきましたが、6月に入って、いったん通常勤務に戻し、今、また次のステップのリモートワーク体制を始めました。

それは、喩えて言えば、「With-コロナからAfter-コロナに続く新しいスタイルの働き方改革と、これによるお客様価値の実現」です。

それは、通勤負荷の軽減、感染症&災害対策、仕事の効率化と働き方改革、そして最終的にはお客様（依頼人様）に、「さすが創英、やることが一步進んでいる！」と喜んで頂くことを目標にした、ちょっと（たいへん？）欲張りな業務改革です。



リモートワークとは本来、

- ①本社オフィスでのリモートワーク、
  - ②支店などでのリモートワーク、
  - ③在宅でのリモートワーク、
  - ④出先や出張先のホテルなどでのリモートワーク、
- の4つの態様があります。

創英は、部分的には数年前からこれを進めていますが、全体への広がりはありませんでした。今回のコロナ対策で、この流れが一気に加速しました。

こちらは…



その計画の一つの柱となる横浜駅前のビルです。このビルの高層階に創英の首都圏第2本部を開設します。

横浜進出計画も含めた WITH コロナおよび AFTER コロナビジョンの全体像は、今ここでは書けませんが、8月1日にオープンにして本格的に計画を実行します。

### With & After コロナへの試行錯誤

このような With-コロナから After-コロナへの計画を進めることができるのは、

・緊急事態宣言下の厳しい環境を、上手に果敢に乗り越えてきたメンバーの働きがあったればこそ！

であり、何よりも

・コロナ以前と変わらずお仕事のご依頼を頂き、ご愛顧して下さった依頼人（企業、大学等）があったればこそ！

と考えております。

With-コロナの時代を上手に乗り越え、After-コロナへの計画を着実に進めていきます。

そのためには、新しい人財を創英に迎えてグローバルに活躍できる知財専門家に育成していくことが重要であると考えています。

創英には、

「新型コロナ禍で世界経済が不透明ゆえに新人採用を絞る」

などという考えは微塵もありません。

知財業務に意欲ある方、知財業務で依頼人に「サスガですね！」と言ってもらいたい方、これまでの経験を知財分野で活かしたい方には、是非とも応募してもらいたいです。

長谷川芳樹